

# 参考人ヒアリング終了

## 次回以降回答作成へ

直見直見  
委員  
検査  
計画



【東京支社】日本学術会議が設置した国際リニアコライダー(ILC)計画の見直し案に関する検討委員会と技術検証分科会は16日、都内で合同の第8回会合を開いた。終了後、検討委の

家委委員長(日本学術振興会理事)は次回以降、非公開の議論を経て回答案を作成していく方針を示した。

検討委、分科会の委員各6人と、京大大学院理学研究科の中家剛教授が参考人として出席。素粒子研究におけるILC計画の位置付けについて意見を聞いた。

中家氏は「(ビッグス粒

子を量産して特性を解明する)ビッグスファクトリーが次の加速器計画として重要というのは国際的合意を得ている」と指摘。「ただ、ILCに直接携わっていない

立場からの私見としては、高エネルギー衝突型の加速器は素粒子実験の有力な道具だが、唯一の道具ではない。他の手法も存在する」と説明した。

加速器を使った実験に携わる若い研究者もたくさんいる。(国際協力を得られれば)過半数を日本人で占める必要も無い」と語った。終了後、家委員長は「予

委員からは人材育成について「日本で必要な研究者を確保できるか」などの質問が出た。中家氏は「大学で加速器を専門に研究するグループは減っているが、

定している参考人ヒアリングは今回まで。必要があれば今後も呼ぶかもしれないが、(次回以降は)非公開で協議し回答案をつくっていく」と語った。